

昭和興産

昭和興産はアジアをターゲットに海外ビジネス

拡大へ向けた取り組みを加速する。タイ（バンコク）、上海、香港の3現地法人のうち、早ければ今年度内にタイで日本人スタッフを1名増員する計画のほか、新たな拠点設置も検討している。同社は今年度（2012年12

月期）を最終年度とする中期3力年計画を推進中で、日本とアジアで活躍

できる事業基盤の構築を急ぐ。

タイ洪水の影響が軽微で、情報電材事業が33%増と好調だったほか、合成樹脂、化学品、産業資材の各事業も堅調な伸びを示した。

中計最終年度の今期は売上高で3%増の690億円を見込んでいる。「分野ごとに主要顧客との関係強化することに加え、環境配慮型商材に焦点を当てた新規分野を増やしていく」ことで目標達成を目指す。

中計の中で重点施策の1つに位置付ける海外事業については、日系企業が集積するタイの現地法人が、前期（9月期）は「洪水の影響で失ったものを他のビジネスでカバーした」ことにより増収を確保した。最近ではOEMがらみのビジネスも動き始めており、現在2名の日本人スタッフ3名に増員する方針。

11年度の業績は「効率的な営業と利益率の高い商材が伸びた」（沢瀉一雄社長）ことにより、売上高が前期比4%増の672億円、経常利益が23%増の11億1000万円となった。東日本大震災や

野ごとに主要顧客との関係強化することに加え、環境配慮型商材に焦点を当てた新規分野を増やしていく」ことで目標達成を目指す。

中計の中で重点施策の1つに位置付ける海外事業については、日系企業が集積するタイの現地法人が、前期（9月期）は「洪水の影響で失ったものを他のビジネスでカバーした」ことにより増収

を確保した。最近ではOEMがらみのビジネスも動き始めており、現在2名の日本人スタッフ3名に増員する方針。

上海は「核となるビジネスを確立する」ことで基盤固めを急ぐ。香港については10年12月に日本人の常駐スタッフを派遣しており、華南エリアを重点開拓する。

アジア事業の拡大を加速